

相模原市テニス協会

■ 30年の歩み ■

会長 佐々木 昇

■ 萌芽

相模原市のテニス協会活動の萌芽は昭和46年の春である。それまでは、個々の事業所別に活動していた市内テニス愛好者が集まって、何か統一的な活動を行いたいと協議したことに始まる。

この時から8月の第一回相模原テニストーナメントを開催するまで、中心になって活動したのは三菱重工・キャタピラー三菱・三菱電機・日本金属工業・帝人プラスチック研究所の5社の人たちであった。この第一回開会には前記5社の外、新日本製鉄、小原光学の2社も参加した。そして、大会の運営をするため参加各社により相模原市テニス愛好会を発足させた。これが現在のテニス協会の母体である。

この第一回大会には47ペアが参加し、佐伯・稲垣組（キャタピラー三菱）が優勝を飾った。翌昭和47年には、相模中央化学研究所も加わり、第二回大会が行われ、秋沢・吉田組（三菱重工）が優勝した。さらに昭和48年には、女子も大会に参加した。男子69ペア・女子25ペアの中から男子は出口・田中組（三菱重工）、女子は橋本・陰山組（相模中研）が優勝した。

昭和48年に第三回大会を終え幹事の引き継ぎが行われたおり、優勝者に市長杯をとの要望が出された。市役所、体育協会、庭球協会などに問い合わせた結果、体育協会田中理事長、庭球協会梅沢理事長（いずれも当時）らの指導もあり、市教育委員会が指導助成するテニス協会を設立し体協へ加盟するという動きに発展した。昭和49年6月19日第一回協会設立準備会を開き、その後打合せを重ねて日本テニス協会に繋がる団体としての位置付けも考慮して規約を決め、10月31日に硬式庭球協会が発足した。内田宗雄会長、佐久間甫理事長、加盟団体18の体制であった。51年に県協会へ加盟し日本テニス協会傘かの組織となった。協会事業の発展とテニスの浸透により協会名称を昭和58年に相模原市テニス協会と改め今日に至っている。

近年のトピックスとしては平成10年の第53回国民体育大会（ゆめ国体）があげられる。テニス競技の相模原市への誘致は適わなかったが審判及び競技運営の要請があり市協会として審判部を創設し体制を整え全面的に協力することとした。ルール等の研修会、前年のリハーサル大会を経て成功裏に本大会を向かえることができたことと自負している。

そして、これを契機に当協会の体制強化にも取り組むことができた。とくに主要企業の持ち回り方式で運用してきた各種大会の運営を請負形式に見直し安定した運用と事務の合理化を図った。さらに当協会のホームページを立ち上げ情報公開、共有化により市民の皆さんへのタイムリーな情報発信に心がけている。

■ 競技活動の進展

第一に行ったのが相模原オープンテニストーナメントの開催である。これは従来のトーナメントを発展させたもので、協会加盟団体のみでなく、広く参加者を募集する方式をとった。

昭和51年には正式に市民選手権として認知された。一般男女ダブルスのみであった種目も参加人数の増加とともに年齢別のベテランの部が設けられ、一般の部は平成元年の第14回大会より予選が始まった。高校生の部は昭和63年、中学生の部は平成6年にスタートしている。

昭和51年の第1回大会は一般の部のみの176組であったが、平成15年には一般の部540組、高校の部335組、中学の部82組の計957組の参加があり、市民スポーツの一大イベントとして成長し、定着している。

一方、永年の懸案であり、根強い要求のあったシングルスはコート数の制約から実施が遅れていた。運営担当と

協議を重ね何とか協会主催の大会とし、あじさいカップと称し市民選手権とは別の大会として昭和62年より開催している。

高校生の部は平成2年、中学生の部は平成7年からである。昭和62年の一般の部326名が平成15年には一般の部365名、高校の部576名、中学の部126部、ジュニア63名の計1530名に成長してきている。とくに高校、中学、ジュニアの参加が伸びており今後の成長に大いに期待している。このように関係者の意欲的な働き掛けにより中学生の部から高校生、一般さらには年齢別まで幅広く大会を行ってきている。さらに平成15年からは小学生以下のジュニアの部をスタートさせる等積極的に取り組んでいる。

主要企業とともに学校の先生方、女子連及びテニスクラブの関係者と協調、役割分担をしながら同好会大会、サークル大会等各種大会の幅を広げていくとともに高齢者の元気に刺激され年齢別の種目を増やしてきている。

そして、平成14年から「相模の地に本格的なテニスを！」の掛け声に一般の部の決勝ではフルジャッチ方式を試みている。審判の厳粛な雰囲気の中で展開される格調高いゲームを是非数多くの市民の皆さんに味わって頂きたいものである。

団体戦としては事業所・クラブ対抗テニストーナメントが設けられたが、上部大会の市予選が行われることになり52年よりそれぞれ事業所対抗、クラブ対抗と別個に開催されることになった。事業所対抗においても市独自のCクラスを設け、初級のプレーヤーでも技術の向上を試し同好者と交流が持てる場を提供してきた。

昭和61年1月に第1回テニス日本リーグが荏原湘南スポーツセンターで開催され三菱重工チームが出場を果たしたことは特筆すべきことである。

一回のみの出場ではあったがJOP上位の選手を目の当たりにみて大いに刺激を受けたものである。そして裏方として審判、運営に参画した実業団プレーヤーの献身的な協力と熱意が印象的であった。

平成7年には実業団チームの活性化を図り県大会での上位進出を目指しB級リーグを立ち上げた。この中から三菱重工、NEC、市役所の各チームが上位の県リーグで活躍している。

平成15年には実業団の全国大会（ビジネスパル）に市役所チームが出場し上位進出を果たすことができた。

■指導普及活動の輪

同じく昭和50年に始めた行事として相模原市テニス教室がある。これは市民へのテニスの普及、底辺の拡大を図るために企画された事業である。何といても初めてのことで種々の問題があったが、関係者の努力により解決していった。第1回テニス教室はキャタピラー三菱のコート2面を借用し、生徒数47名で実施した。ヘッドとして佐久間（三菱重工）、主任コーチとして田中、秋沢（三菱重工）、嶺（キャタピラー三菱）、佐藤（帝人）があたり、コーチを4グループにわけ、各週交代して指導をした。当初はコーチの方にもうまく教えられるかとの不安があったが、熱心な教え方だと好評を博し、年々盛大になってきている。2年目からは、清水（三菱電機）が運営委員長として献身的に運営にあたっている。第2回から第7回まではコーチ陣を3グループに分け、嶺（キャタピラー三菱）、田畑、長島（三菱重工）、田中（昭和石油）、山下（相模中研）等の人々が主任コーチをつとめた。

昭和52年からコーチのレベルアップを図るため実施された神奈川県公認指導員検定会に参加し、4名が合格した。続いて毎年1、2名の合格者を出し、現在は50数名が資格を取得している。また、この中から全日本テニス協会の公認指導員の資格も取得している。

テニス教室も昭和53年の第3回目からは会場を相模原グリーンテニスクラブに移しコート4面を借用、生徒数も百名を越すようになった。これでも参加希望者が多すぎ、講習を受けられる人数をもっと増加してほしいとの要望があり、検討した結果、昭和57年からは1日2回A、Bグループに分けて実施することとした。またこの年から主任コーチと副主任コーチを各コートに固定し、毎週連続してコーチすることにより、一貫した指導を行えるような方式に改めた。申込方法も当初の先着順を改め、抽選制に変えた。また、このテニス教室は市民にテニスを普及する上で、大きな役割を果たしており、テニス教室の卒業生の方々が同好会、サークルを作り活動

の場を拓げるとともにこの方々の中からコーチ、協会運営にも積極的に参画している。

また、テニス教室が終わった後でテニスが続けていく同窓会グループの数も増加し、昭和58年には市営コートで大会を開催するところまで成長した。最近ジュニア、キッズの参加者が増えてきていることもありカリキュラムの内容や小道具を工夫するなど。ジュニアの育成にも積極的に取り組んでいる。

同時に、指導員研修会にも力をいれ、テニス教室前の研修会の実施。さらにはプロのコーチを招いての一泊二日の研修会など指導員のレベルアップと交流にも努めている。とくに田辺学コーチには論理的でわかり易いテニス理論とともに柔らかいボールタッチを実践していただき毎回参加者一同大いにリフレッシュさせてもらっている。テニスの素晴らしさとともにテニスに取り組む一途な姿勢に感激しながら夜遅くまでお付き合いを頂いている。このような貴重な機会を多くの皆さんに味わって頂きたいものである。

市制50周年記念事業として平成16年2月21日に松岡修造のテニスパークが総合体育館で行われた。親子で楽しむショートテニス、経験者のエキスパート入門がありアシスタントコーチ20名、受付案内等15名を動員。高橋宏彰指導普及部長をチーフに取り組んだ。前日夜遅くまでリハーサルを行い、当日は8時から会場に集まり10時からの開始に備えた。松岡修造コーチの精力的でかつ熱血指導に参加した子供たちはもちろんのこと。アシスタントコーチも感激の様子。松岡修造コーチからは「相模原市テニス協会の皆さんの実力はともかくチームワークと意欲は全国トップレベル！」とのお褒めの言葉を頂き一同大いに感激。今後の大きな励みとなった。

■さらなる飛躍を期して

そして、平成15年には相模原市テニス協会も創立30周年を迎えることができた。振り返って協会創立に尽力された方々、また、多くの先輩諸氏の努力と、加盟団体各位、テニス関係者の方々のたゆまない協力と奉仕の賜物と心から感謝したい。

この30年、相模原市テニス協会は幾多の変遷を経て大きく飛躍してきた。その源は相模原テニス愛好会と称し、市内企業の有志が個人的に合い集まって相模原テニストーナメント大会の開催に由来している。

テニスの好きな仲間を募り、自らのテニスを楽しむと共に、さらなるテニスの輪を拓げようとする先輩諸氏の熱き想いを改めて強く感じるとともに深く敬意を表したい。このように企業の私的な有志から生まれた当協会は企業、クラブ、女子連、同好会等の拓がりの中で運営されていることは特筆すべきことであり、活動を支える礎といえる。

とは云え、厳しい社会環境の中。60万超の市民を支える施設の充実と「みんな元気！さがみはら」に貢献する協会としての期待は極めて大きいものがある。協会に携わった諸先輩の設立当初の熱き想いを脈々と引き継ぎながらさらなる発展を期していきたい。

最後にテニスに携わる一人一人がテニスの輪を拓げながら充実したテニスライフを送られることを切に祈念する次第である。

●平成16年現在の協会役員●

名誉会長 田中 章一

顧問 佐久間 甫 清水 栄

嶺 雍明 岩瀬 啓市

会長 佐々木 昇

副会長 山口 尊広

理事長 川口 基一郎

副理事長 秋山 輝雄 高橋 宏彰

渋谷 嘉一 姫野 富士子

理事 後藤 由紀 秋山 幸子 嶋田 裕子 岩下 智潔 田中 伸也 徳岡 剛 柳堂 康介 宮坂 利彦
大川 真智子 伊集院保治 京谷 美智男 横溝 彰文 野崎 況子 古田 仁 嶋田 健太郎
井開 徹 緒方 真理子 宮本 昇 吉野 美子 金谷 邦弘 安田 ひろみ 阿部 定子
井上 裕夫 山本 由美子 星 邦彦 水野 英二 佐藤 康夫 平野 恩 渡辺 雄治 石井 英隆
坂本 啓司 米多 寛之 松崎 剛 大河原広行 岩瀬 啓市 岡部 緑 岡島 武 村松 優
大谷 美恵子 平田 睦子 只隈 悦子 中野 慶子
監査 高松 輝一郎 加藤 政道
参与 小橋 タミエ 金子 公一
青山 和夫 小島 良雄

●テニス協会組織図（協会 TOP ページよりリンク）●

写真1：第28回市民選手権大会 表彰関係者(H15.8 横山公園コート)



写真2：初級テニス教室 レッスン風景(H15.5 淵野辺公園コート)



写真3：松岡修造のテニスパーク＝アシスタントコーチの皆さん(H16.2.21 総合体育館)



写真4：松岡修造のテニスパーク＝キッズのレッスン風景 (H16.2.21 総合体育館)

